校長通信「学ばん共に」

その１　「希望輝く可美の学舎」を目指して

３月２５日　中庭の桜が満開

校歌の歌詞にある「**希望輝く　可美の学舎**（まなびや）」に近づくために、以下の８点を教職員全員が心にとめて、学舎づくりを一歩一歩進めていく。

１　**「それぞれの持ち味を生かし、力をあわせる」**…経験・得意分野・性格・特技・趣味等、得手に帆を揚げるスタイルで、可美中教職員・教育支援者全員で力を合わせて取り組む。特に困難に対しては、チームプレーでのぞむ。「つながる」ことで、希望輝く学舎に近づく。

２　**「授業こそが学舎の大黒柱」**…魅力ある授業にこそ夢や希望を育む源がある。心を耕す熱がある。「確かな学び」を土台に「主体的・対話的な学び」を展開し、「深い学び」を実現するよう、日々の授業改革を進める。授業のねらいを明確に提示し、生徒が主体で、受信（Input）→思考（Intake）→発信（Output）できるような授業の展開を目指す。キャリア教育の４つの力「**か・み・え・み**（可美笑み）」を意識した授業づくりに取り組む。

３　**「情を持って接する　思いを持って導く（情接思導）」**をあらゆる教育活動の基本的スタンスとする。生徒の話に真剣に耳を傾け、言葉を選んで目を見て話す。生徒が知らないことは丁寧に教え、できないことは努力を認めて励ます。してはいけないことは愛情をもって叱る。感情的に怒らない。「距離感を大切に接する」「人間味のある言動」

４　**「生徒に前を向かせる、生徒の心に火をつける」**…生徒一人一人のよさをとらえ、どの生徒も学校に居場所を感じ、自分のこれからに夢や希望を抱けるような働きかけを行う。担任からの日記ペン入れ。校長企画「夢レポ」「夢カード」を教職員と連携して進める。

５　**「攻めの生徒指導」**として、「**感動ある行事**」は欠かせない。縦割りを生かして生徒の心に火をつける。行事の中でバランス感覚のあるリーダーや、失敗を恐れないインフルエンサーを発掘する。「あこがれる先輩」「なりたい自分」特に学年行事（修学旅行・野外活動）は、生徒の主体性を生かしつつ、中学校生活を輝かせる実りある思い出になるよう職員集団の英知を集めて企画・運営する。また、「**夢中になる部活動**」でも、「求めて学び、自ら耐えて鍛える」場面を設定し、「自分を大切にする心」「仲間を思いやる心」を育てる。人としての成長を促すことを部活動の第１目標とする。
★「大会・コンクールに向けた段階的目標設定」「練習方法の工夫」等

６　**「守りの生徒指導」**では、「**報告・連絡・相談**」を密に行い、「**ソラ**（事実）**・アメ**（解釈）**・カサ**（判断）」の思考のもと、チームとして迅速かつ丁寧に対応して生徒の成長を促す転機をつくる。また、保護者との信頼関係を築く絶好の機会とする。

７　**「形を大切にした生徒指導（あいさつ・礼儀・聞く姿勢・整理整頓・物の管理等）」**を粘り強く行う。生徒の近くに教師がいる。あいさつや返事は時を逃さない指導で必ず変わる。ただし、形に頼りすぎない、良好な人間関係づくりを進めつつの指導とする。**★「あいさつ運動協力校（R4-5）」**

８　**「ひらかれた学校」**にするために、情報発信の日常化（学年・学級通信、ブログ、掲示、さくら連絡網など）やＣＳ活動の積極的推進によって、地域・保護者に信頼される学舎づくりをめざす。「地域と共に歩む」「密室芸人にならない」
★ブログＵＰ回数…R4:124（R3:147 R2:159）

（北村健治）